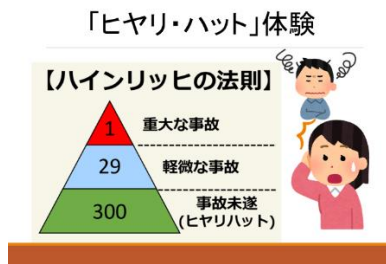




学校だより **本荘** Smile

令和6年度 第49号
令和7年3月26日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

3月の学校朝会は「ヒヤリ・ハット」について。喉元過ぎれば熱さを忘れる？



「喉元過ぎれば熱さを忘れる」
のどもとすぎれば、あつさをわすれる



新しいタブレット



三月も思いやりの心で
笑顔の本荘小

来年度、4月からは新しいタブレットが貸与されます。誤解のないようにお伝えいたしますが、配付ではありません。貸与です。子どもたちにはICTをツールとして、主体的に学びに向かう教育活動に勤しんでもらいたいものです。期待しているところであります。しかしながら、子どもたちのタブレットへの関わりで気になっていることが2点あります。1点目はタブレットを学びのツールとしてではなく、自分の娯楽のために使っていることもが確実にいるということです。これにつきましては、家庭連絡などでご家庭と連携いたしまして、徹底的に指導をしていきたいと考えています。タブレットは遊びの道具ではなく、学びのツールなのです。ここを打ち込んでいきたいと思っております。

2点目は、扱い方が悪い子どもがいるということです。不慮の事故で画面が割れることがあるかもしれません。避けられなかったことかもしれません。ですが、画面が割れそうになったことが初めてではないはずです。それを理解してもらうために「ヒヤリ・ハット」のお話をしました。この「ヒヤリ・ハット」とは、ドイツのハインリッヒという人が言った「1つの大きな事故の前には29の小さい事故と300のヒヤリ・ハットが起きている。」という言葉から世の中に広がっていきました。

つまり、画面を割ったことも、29回ほどタブレットを落とす等の経験があり、300回くらい落としそうになったり、割りそうになったりしたことがあるってことです。

学校朝会では、交通事故になぞらえてヒヤリ・ハットを考えさせたのですが、ご家庭でも、こどもに確認させていただきたいところです。どんな場所で充電していますでしょうか、家庭でも所定の場所（保護者の方々が確認できる場所）においてありますでしょうか。大人の知らないところで勝手に部屋の中にもって行っていませんか。つまり、これはご家庭でも通じるヒヤリ・ハットになっているのです。（以下続きます）

タブレットが新しくなる機会に、ぜひ、いや、必ず子どもとタブレットの使い方に関する家庭でのお話いや、保護者の皆様方からのご指導を入れていただきたいところです。その意味も含めての3月の学校朝会でした。よろしくお願い致します。(校長)

校長先生の虫眼鏡 3月学校朝会「のど元過ぎれば、ヒヤリ・ハット」

令和6年度 3月 学校朝会

おはようございます。今から校長先生のお話をします。今日は、みなさんの進級に向けて大切なお話をします。みなさんは「ヒヤリ・ハット」という言葉を聞いたことがありますか。これは道路を横断している時や遊んでいる時などに「ヒヤリ」としたり、「ハット」としたりする危ない経験を表した言葉です。この「ヒヤリ・ハット」体験はハインリッヒという人が言った「1つ大きな事故の前には29の小さい事故と300のヒヤリ・ハットが起きている。」と言う法則からよく使われるようになりました。

この前、ある学校で、下校の時に、友達に「早く来いよ!」と呼ばれたので、つい信号のない道路を走って渡ってしまい、自動車にぶつかって大けがをするという交通事故があったそうです。この学校では校門を出たところに大きな道路が通っています。本荘小と似ていますね。その道路を渡るための横断歩道が正門からすぐ近くにあるのだそうです。ですので、前から、門を出てそのまま横断歩道のない道路を渡ってしまう子どもがいるので、朝会などで必ず横断歩道を渡るように指導がされていたのです。しかも、その学校でアンケートをとった結果、このような「ヒヤリ・ハット」体験をした子どもが3分の1もいたのだそうです。実は今回大けがをした子どもは、以前にも同じように道路を渡ろうとして車にぶつかりそうになり、「ヒヤリ」とした体験があったということです。けがをした子どもは、前に車にぶつかりそうになった時はとても怖い思いをしたので、それからきちんと横断歩道を渡るようにしていたのだそうですが、1年半位が過ぎ、他の子ども横断歩道を渡らないていることを見ている中で、前に「ヒヤリ」とした体験をすっかり忘れてしまったようです。

このように、この子どもに限らず、人間はとても辛い体験や嫌な事件にあった時は、時間が経つとその体験を忘れてしまうのだそうです。これは人間のよいところでもあるのです。いつまでも辛い体験を覚えていると、実際に病気になってしまうこともあるのだそうです。人間の脳は辛い事は忘れるようにできているんですね。とはいっても、交通事故などの「ヒヤリ・ハット」体験を忘れる事は、命の危険につながりますので、決して忘れてはいけません。ではどうすればよいのでしょうか。

例えば、みなさんも知っているカーブミラーというものがあります。これは、曲がり角に必ずあるわけではないのです。事故が多く起きた場所や地域の人たちが「この曲がり角は、先が見えにくくて危険だからミラーをつけてほしい。」という場所にカーブミラーが設置されています。このように、大人の人たちは、自己の経験を生かして同じことが起こらないように工夫をしているのです。

学校でも「ヒヤリ・ハット」のような経験があれば、すぐそれを防ぐための指導をし、交通安全協会の方をお願いして見守りをさせていただくようにしています。それでも最後は自分の責任で事故に合うのを防がなければなりません。自分の「ヒヤリ」とした体験を忘れないことや、友達の体験を聞き、それを自分の行動にいかすと言う意識が大事です。ことわざで「喉元過ぎれば熱さを忘れる」というものがあります。失敗した経験を忘れる前に、失敗しないような行動を先に身に付けておき、頭では忘れても体で覚えるようにする事が、危険から逃れる方法です。

今日、なんでこんな話をしたかといいますと、みなさんが使っているタブレットはもうすぐ新しいタブレットになります。みなさんはタブレットを大切に扱っていますか?そのタブレットを落したり画面を割ったりした経験がある人がこの中にはいるかもしれません。ずいぶん反省したかもしれませんが、そういった自分が失敗した経験を、また二度と繰り返さないようにしてほしいと思います。これは今まで画面を割ったことがない人だって、「ヒヤリ・ハット」の経験があるだろうから話をしているのですよ。今日の校長先生のお話をもとにして絶対ものを大切にすることを忘れないことも必要だと思います。

いよいよ3月です。お勉強のまとめやみんなの生活のいろんな場面を次の学年のためにいかしていけるようにしてください。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ことがないように、「ヒヤリ・ハット」をいかして次の学年にしっかりと進級することができるように準備を進めておきましょう。3月も思いやりの心で笑顔の本荘小にしましょう。これで校長先生の話が終わります。